

# クラウド活用における経済合理性概念に沿い投資対効果を有する セキュリティ向上に向けた取り組み考察の件

Consideration of efforts to improve security with return on investment in line with the concept of economic rationality in cloud utilization

中條正志・マネジメント分科会・情報セキュリティ大学院

研究背景・対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>○抱える課題としては、大きく“セキュリティに関し、所属企業が、世間標準に到達していない現状”と“IaaS、PaaSに関する基準整備の必要性”の大きく2つ</li> <li>○よって、対応に向けて、研究テーマは“経済合理性の概念に沿い、投資対効果を有しながら、如何にセキュリティレベルの向上を図れるか”とし、有効なツールである、クラウドを具体研究対象とし、その中でも、PaaS・IaaSを対象とする想定</li> </ul>	期待成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○投資対効果を有しながら、セキュリティ向上を実現できるPaaS/IaaS用の基準・運営を確立し、クラウド管理の高度化を実現</li> <li>○テンプレート化・IaC・DevSecOps等のその企業に応じた適用により、クラウド開発力の向上を実現</li> </ul>
研究方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○FISCクラウド解説書（試行版）・AWS Well-Architected・NIST SP800-53 Revision 5をもとに、チェック基準案を策定</li> <li>○正規調に 取り込むと、現状基準より、200項目以上の確認項目が追加となる想定であり、開発に関する負荷が増大する懸念有。負荷軽減において、リスクに応じた軽重付けた運営や、テンプレート化等の対応が必要。クラウドでの開発で求めるべき内容を明文化するとともに、開発負荷軽減を実現する“テンプレート化”、インフラ開発負荷軽減等を実現する“基盤整備”を、試行運営の中で精緻化を図り、各種規程・基準・ガイドラインを整備</li> <li>○実開発プロジェクトにおいて、試行運営を行い、評価。定性効果測定としては、試行対象プロジェクトにおいて、当初予算を上回らないか、もしくは、追加コストを要しても、資源課による投資対効果ありと評価・決裁された場合に、効果を有すると評価予定。また試行対象プロジェクトメンバーへのアンケートも実施し、評価予定</li> </ul>	活動状況	<p>【活動期間：2021.10-2021.12】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チェックシート案及び、開発負荷軽減案を策定</li> <li>○所属企業のシステム開発・運用部隊と、基準・運営の2022.3月未までの確定を目指し、協議中</li> <li>○試行対象プロジェクトを1つ選定し、システム方式設計期間にて評価中</li> </ul>
		今後の予定	<p>経済合理性概念に沿い投資対効果を有していてもセキュリティレベル向上が可能な、更なる有効施策の深堀・他案の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-テンプレートを複数揃えるといった拡充策</li> <li>-IaC適用手法の知見蓄積・ガイドライン反映</li> <li>-DevSecOpsの実案件への適用 等</li> </ul>